

風紋広場北東側植栽について

1 経緯・目的

平成26年4月より本市が所管する風紋広場について、北東側に隣接して医療看護学校が建設されることを踏まえ、現在、枯死等により植栽が少なくなっている北東側に高木植栽を検討するものです。

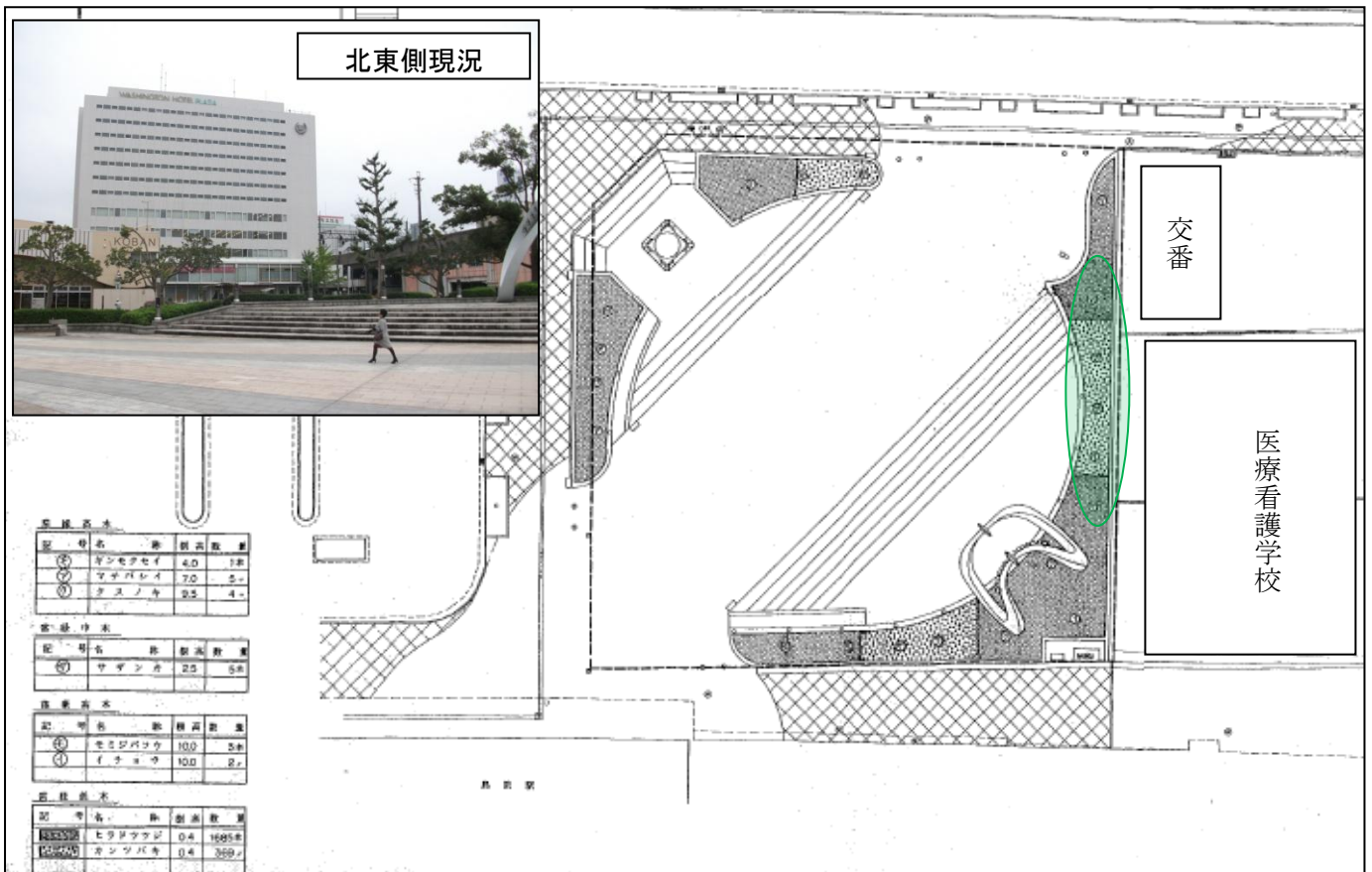
2 内容

本来、風紋広場北東側には、イチョウ、クスノキ、マテバシイ、サザンカ（中木）が配置されていましたが、そのうちの数本は枯死や幹の空洞化による倒木の危険に配慮し伐木撤去され現状となっています。

風紋広場北東側には、平成27年度オープンの手前で医療看護学校の建物が建設中であり、隣接する建物による風紋広場利用者への圧迫感を軽減するため、高木を補植します。

今回、鳥取県から風紋広場の移管を受けるに当たり、北東側への高木の補植を要請します。補植は、高さ1.5～2.0m程度の苗木で行い数年をかけて高木に仕立てます。

3 風紋広場植栽平面図



参考：補植を検討する高木の例

【マテバシイ】



特徴

ブナ科の常緑高木。高さ 10～15 メートル、直径 1 メートルに達する。萌芽（ほうが）性が強く、株立ちになることが多い。樹皮はほぼ平滑で暗褐青灰色。葉は枝先に集中してつき、革質で長さ 10～20 センチメートル、鋸歯（きよし）はない。雌花序、雄花序とも穂状で、初夏新芽の腋（えき）から斜め上に出す。

【イチョウ】



特徴

イチョウ科の落葉大高木で、大きいものは高さ 45 メートル、直径 5 メートルに達する。秋には美しく黄葉する。雌雄異株。強健で抵抗力が強く、土地を選ばず生育する。成長は早く、病虫害は少ない。萌芽（ほうが）力が盛んで、強い剪定（せんてい）にも耐える。

【クスノキ】



特徴

クスノキ科の常緑高木。高さ 20 メートルに達し、樹皮は暗灰褐色、若枝は緑色。葉を裂くと樟脳（しょうのう）の香りがする。成長がよく長命で、公害に強いいため各地に栽培される。材と葉に含まれる樟脳はおもにセルロイド製造原料とされるほか、防虫剤や薬用とする。

【ヤマナシ】



特徴

バラ科、ナシ属の落葉高木。鳥取県の在来種で、本年度、本市湖山池公園で行われた緑化祭で秋篠宮殿下がお手植えされた。ナシ(園芸品種)の原種。4月に樹冠全体を覆うように白い花が美しく、秋には、小さな黄褐色の果実（ナシ）が実る。

【アズキナシ】



特徴

鳥取県の在来種でナチュラルガーデンにも使用。5月～6月にナシに似た白い花を咲かせ、黄色の紅葉および赤い果実が美しい。名前の由来は果実がナシに比べて小さいためアズキナシ。